

平潟地区の定置網について第1報

定置網の漁獲特性について

刈部信二・河崎 正・深川義視

まえがき

本県の定置網漁業は、平潟地区の小型定置網4ケ統、日立市会瀬漁場の大型定置網1ケ統の計5ケ統であるが、茨城県海面に設置のものは、平潟地区2ケ統、会瀬地区1ケ統の計3ケ統である。ここでは本県の漁業者が経営している平潟地区の小型定置網4ケ統の漁獲統計から分析した漁獲特性を報告する。

目 的

定置網の調査は昭和42年度から始められたが、まず平潟地区4ケ統の漁具漁法、漁況操業状態、海流を把握し、定置漁業の実態を明らかにすることを目的として調査を実地した。

漁 場

定置漁業の設置海域は図1図に示した。すなわち、平潟地区菊多浦を中心に大津岬から小名浜三崎間の約5里に小型定置3ケ統が約3,000 m間隔で、また高萩市小野矢指前に小型定置1ケ統が設置されている。これらのうち、春網だけの操業は2ケ統、春・秋両期操業が2ケ統である。張建期間は年により多少変わるが一般に春網は5～8月の4ヶ月、秋網は10～12月の3ヶ月が普通である。

この地区の定置漁業は昭和18年頃(正)漁業(石川政太郎)が新潟方面より技術を導入して設置したことに始まるといわれている。設置水深はほぼ20～30 m内に身網があり、底質は一部岩盤の砂質である。

漁獲物の主体は春期がイナダ、サバ、秋期がイナダ、ワラサで回遊性魚族が多い。

漁獲量からみた魚種の関係

当該定置網の6年間の漁獲量を表1に示した。これにみるように、漁獲魚種の順位は、各漁場とも漁獲量差はあっても似ており、サバ、イナダがその年の漁獲量の大半を、かつ、順位で1、2位を占めている。

1 春網におけるサバ、イナダの関係

上述の主体魚サバ、イナダの春網漁獲量をみると

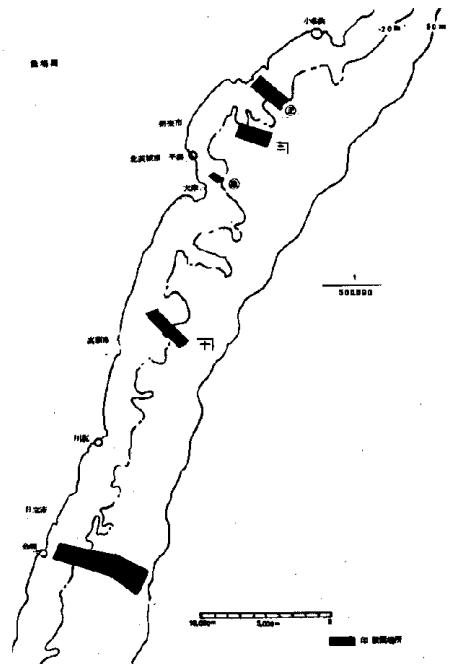


図1 茨城県における定置網の設置漁場図

表2 平潟地区定置網の春網によるサバ・イナダ漁獲量 (単位 トン)

漁獲年	昭和37年	38年	39年	40年	41年	42年
サバ	510	14	841	88	245	386
イナダ類	110	86	166	51	256	99

サバは、14～841トンと年変動が大きく、イナダ類は、51～256トンでサバの約1/3程度である。

両者の関係は、サバが多い年にはイナダ類の漁獲が少ない傾向をみせるが相関はあまりない(図2)。

またある年(X_n 年)の春網のサバ漁獲量と次年(X_{n+1} 年)の春網のイナダ類漁獲量についてみると(図3)

その相関は -0.797 となる。すなわち、ある年の春網のサバ漁獲が良い時は、翌年のイナダ漁獲がいい。過去6年間にサバの多かったのは、昭和37、39、41、42年であり、それぞれの翌年昭和38、40、42年にはイナダが不漁であった。この傾向から昭和43年もイナダ類は不漁年と想像される。

これを各定位置網別にみると、あまり関係がなくこの海面においてはどの定置網に入網するか予想はむずかしい。

2. 春網のイナダと秋網のイナダの関係

この海面で秋網を実施する定置網は2ヶ統のみであるが、春網によるイナダ漁獲量と秋網(正)のイナダ漁獲量の相関をみると(図4)、負の相関置を示す。

すなわち春網でイナダ類のよかった年は秋網のイナダ類は少ない。また同様の関係を定置網(正)でみてみると、同様に負の相関を示す(図5)。なお(正)定置網で春網イナダ類>秋網イナダ類の年は昭和37、

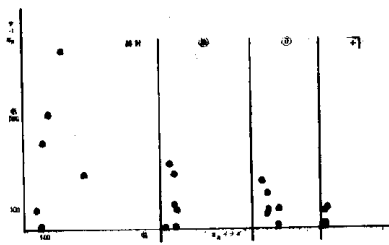


図2 春網によるある年のサバとイナダの関係

39、41年、春網イナダ類<秋網イナダ類の年は昭和38、40、42年であった。

3. 同一定置網による春網のサバと秋網のイナダはあまり関係がない(第6図)。

4. ある年の春のイナダと翌年の春のサバの関係がみられない。

5. ある年の秋のイナダと翌年の春のサバの間には関係がみられない(図8)。

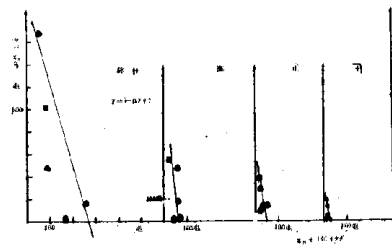


図3 春網におけるある年のサバと翌年のイナダの関係

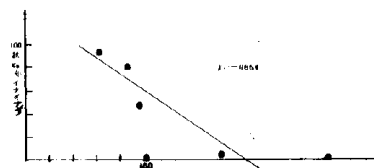


図4 ある年の春網イナダと秋網イナダの関係

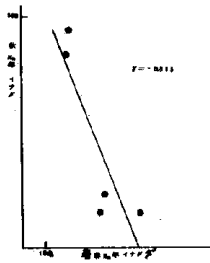


図5 定置網のある年の春網のイナダと秋網のイナダの関係

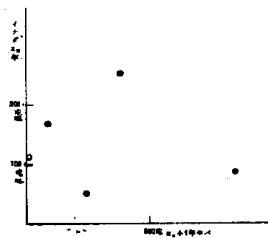


図7 ある年の春のイナダと翌年の春のサバの関係

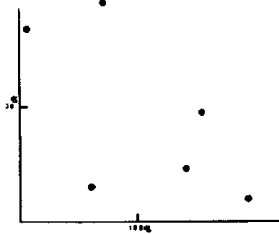


図6 定置網における春網のサバと秋網のイナダ類の関係

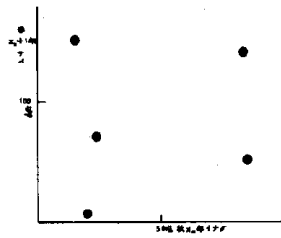


図8 ある年の秋のイナダと翌年の春イサバの関係

考 察

本県におけるイナダは5～8月にかけて北上し、10～12月に南下するが、イナダ類は平潟海区を毎年ある量通過し、春の魚道と秋の魚道に変化がある。また春接岸すると秋は接岸せず、かつその逆も予測されるから、イナダ類の回遊魚道を把握することにより定置網の設置位置を適正にすれば漁獲量の増大が期待できる。

要 約

- (1) X_n 年の春網のサバと X_{n+1} 年の春網のイナダ類の関係にある。
- (2) X_n 年の春網のイナダの漁と X_n 年の秋網のイナダ漁の関係にある。

文 献

東京水産大学 1967: 漁業調査報告書
 三谷文夫 1966: 九州面海域における漁況とつり資源の将来に対する見通し, ていち 16.30